

第33回 うつのみやこども賞だより

平成28年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『モツ焼きウォーズ 立花屋の逆襲』

ささきかつお／著（ポプラ社）

『夜間中学へようこそ』

山本悦子／著（岩崎書店）

～読んだ本の感想より～



- 常連さんや立花一族の人たちが、それぞれの特技で立花屋を守ろうとしていて、かっこいいなと思った。
- 「モツ焼き」という言葉から始まり、それから大そうどうが起きるとい話が、とてもおもしろい。現実にはありえないモツ焼きをめぐるそうどうがおもしろい。
- 商店街を守ろうとするたんけつ力がすごかったです。父ちゃんの発表にはおどろきました。
- モツ焼きを食べてみたくなりました！戦いの時、すぐ

にページをめくって、本にひきこまれました

- 相手と戦うシーンがかっこよかった。これからがんばってほしい。
- 6年生で店のことを守っていくとする気持ちがすごかった。
- タケルが、「家族が1番の宝物」だと言ったところに感動しました。また、妖術が使えるなんていいなと思います。



- 外国人とか、おばあちゃんとか、色々な人がかよっている夜間中学に、実際に自分がいってみたいとなった。
- たくさんの出会いがあってよかった。
- 出身の国や年もちがう人と勉強するという事は、どんなことかなと思いました。
- 夜の学校があるなんて知りませんでした。
- 70さいをすぎても中学に行きたいと思えるのはすごいと思いました。
- 優菜やミオちゃん、松本さん、和真のような「仲間」のいる、夜間中学がうらやましくなりました。

『アポリア あしたの風』 いとうみく／著（童心社）

- この本にでてくる人たちから、生きるという強い気持ちがヒシヒシ伝わってきた。
- 地しんや津波のこわさ、ひがいにあった人々のかなしさと心強さがすごく伝わりました。
- 少し暗いお話でたが、とても大切な事、＜命の重さ＞について考えさせられるお話でした。
- 生きる希望を捨てない一弥がすごいと思った。
- 一弥が、子どもたちの世話をしたり、ボランティアをしたりして変わったところが良かったです。
- 地しんがどういうものなのかよくわかった。

『ハルと歩いた』 西田俊也／著（徳間書店）

- 陽太とハルはおたがいに大好きなんだなあと思いました。
- 読んでいて、フレンチブルドックのかわいい感じが伝わってきて、私も犬をかってみたいという気持ちになりました。
- 犬のお陰で、たくさんのこと、1人ではできなかったことができるようになっていって、これが人の輪なんだと思えた。
- 急にもらったフレンチブルドックのおかげで、町をいろいろまわれたので、犬っていいなと思いました。
- ホームレスと陽太の会話がおもしろい。
- 陽太とハルがいっしょに雨をみている所がよかった。